

黒潮鳴れる

(昭和四年寮歌)

須田政美君 作歌
森忠文君 作曲

一

黒潮鳴れる滄海越えて
際限無き春を北州に訪ふ
原始の大森に八光揺ぎ
若草の曠野に羊群遊ぶ

二

情懷は臘月に仄かに薫る
アカシヤの白花慕ひて歩む
恋ふる往昔の静寂けき名残り
古塔にひびく懷しき鐘

三

紅光うすくエルムに映えて
草笛かそかに牧場になる
漂泊らひ行ける白雲影仰ぎ
無心の若人らは緑に臥せり

四

果無き憧憬銀河に寄せて
玻璃永劫の清き夜空を
神秘の皓翼声なく衝ちつ
我等が高夢は流れゆくかな

五

淋しき風声に銀雪は乱れつ
大空鳴りて渾瞑く暮れゆく
燦めく灯影常春の謳歌
血潮と共に尚湧き立てり

六

久遠の絢夢はうづもれゆきて
哀愁時にしづかに来れど
雄き「自然」と「血潮」の人は
榆陵に永くうつくしく立つ